

別紙 2

高校生ステップアップ・プログラム

北海道上磯高等学校

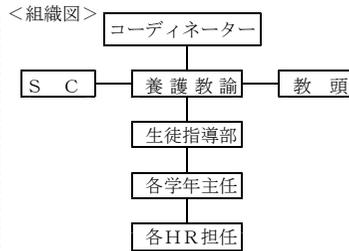
課程 全日制
学科 普通科
生徒数 175名

1 事業のねらい

生徒のコミュニケーション力の不足や自己肯定感の欠如等を改善し、学級満足度を高めることで不登校や中途退学の未然防止を図る。

2 取組の経過

- 5月 2年生対象Q-Uテストの実施と分析
- 6月 1年生対象コミュニケーションスキル育成トレーニングの実施（1回目）
- 7月 コーディネーターによるプログラム検証方法の校内研修会の実施
- 9月 2年生対象コミュニケーションスキル育成トレーニングの実施
- 11月 1年生対象コミュニケーションスキル育成トレーニングの実施



3 主な取組の内容

- 2年生対象Q-Uテストの実施と分析(5月)
- 1年生対象コミュニケーションスキル育成トレーニングの実施(1回目)(6月)
 - 「構成的グループエンカウンターの実施」
1年生（2クラス）を対象に、構成的グループエンカウンターを実施。コミュニケーションスキルの向上を目指した。
- コーディネーターによるプログラム検証方法の校内研修会の実施(7月)
 - 「学級満足度調査Q-Uに関する校内研修」
コーディネーターの函館大学専任講師金山健一氏が講師となり、5月に実施した2学年生徒のQ-U結果について分析方法を学ぶとともに、問題を抱えた生徒への支援方法や学級満足度を高めるための方策を、受講した教職員20名全員で検討した。



結果データの分析に当たっては、まずQ-Uの理論的背景を理解し、満足度の尺度である学級生活不満足群や非承認群など5つの領域に、問題点を確認した。さらに、特に要支援群の生徒を事例として、ケーススタディを行い、3～4名のグループごとに日常の観察状況や支援の具体策を話し合い全体で発表した。

金山氏は、今後の対応として、情報のクロス化、声掛け、

個人面談の組織的な充実を通して個別支援を図るとともに、学級満足度を向上させてほしいとまとめた。参加した教員からは「学級満足度の低い生徒が多いことが分かり、高めるよう努力したい。」「Q-Uのことが良く理解できた。」「情報のクロス化の大切さが分かった。」「生徒の個人名が出てきて、その情報を全体で共有し議論でき充実した研修だった。」などの声が聞かれた。

4 1年生対象コミュニケーションスキル育成トレーニングの実施(2回目)(10月)



- 「上磯高等学校 おもしろ心理学講座」

四肢を失った安井雄太青年のVTR（『NNNドキュメント03』）を通して、高校へ行くことの意義と中途退学の防止を呼びかけた。生徒は講座を通して高校を続けることの大切さを感じていた。（なお、2年生対象コミュニケーションスキル育成トレーニング（9月）は実施できなかった。）

4 成果と課題

○ 成果

1年生はコミュニケーションスキル育成トレーニングを柱とし、不登校・中途退学防止を目標に実施した。11月末現在での1年生の退学者は昨年同月比36%減であり、「卒業応援！さわやかプロジェクト」（H19・20）における校内教育相談体制の充実の成果を引き継ぎ、本事業（H21・22）におけるコミュニケーションスキル育成の成果が現れた。

2年生はQ-Uテストの分析を通して、学級満足度の向上と要支援群のサポートを目標に実施した。コーディネーターによる校内研修会で学んだ内容を学年経営に取り入れ、2年生の退学者は0名（転出者3名）（昨年同月退学者2名、転出者3名）、今年度の見学旅行の参加率は91.4%（過去5年間の平均参加率80.1%）と大きな成果が得られた。

また、スクールカウンセラーによる「コミュニケーション教室」が10回にわたり開催され、複数の生徒が毎回参加するなど、教師、生徒の中にコミュニケーション力向上の意識が根付いてきている。

○ 課題

コミュニケーションスキルを高め、学級満足度を高める教育活動を計画的・組織的に行っていく必要がある。また、構成的グループエンカウンターなど、コミュニケーションスキル育成を実践できる教師の育成を図る研修が今後も継続的に必要である。

○ 次年度に向けて

- コーディネーターによる生徒へのトレーニングに加え、日常的な教師のアプローチにより、コミュニケーションスキル育成を意識した教育活動を推進する。
- 各学年でアセスを定期的に使用し生徒の実態を把握するとともに、支援を必要とする生徒の早期発見と学級満足度を高める学級経営について研鑽に努める。

